

研究テーマ	概要
	<p>ニ 回転速度とバイトの調製 ホ 対象試作品……花器、小物入れ、銘々皿、一輪差し、その他</p> <p>1 くす材 イ 板目方向は逆目、毛羽立ちが生じやすく鋭角の刃先をもちいる。 ロ 木口方向で年輪が比較的均質であるので旋削は容易。 ハ 外周は内周より抵抗が大きく、一定の位置に固定し、上下に軽く作動しうる状態にたもつ。</p> <p>2 屋久杉 イ 春材部、秋材部が比較的均質であるので、旋削は容易。 ロ 木口方向は材質がやや硬軟なため、刀物の研ぎ方によって製品効果に大きく影響する。 ハ 旋削作動については、くす材に対して安定性がある。</p> <p>3. 成果 それぞれの試作品は第7回住いと暮らしの総合展において発表展示した。</p>
15. 虫害松材の利用研究  堀之内輝男	<p>1. 目的 前年度において、虫害松材の材質について検討し、試作品については乾燥の都合もあって、枝材の利用を主に実施したが、今年度は広板材、厚板材の利用を目的とした家具材への利用を主として試作を試みる。</p> <p>2. 概要 (1)ソリッド材による、組手、柄組加工法による試作。 (2)造形的に楽しさのあるデザインに主眼をおいたもの。 (3)クラフト的なものの試作。</p> <p>試作品 ・テーブル ・文机 ・花台</p> <p>3. 成果 試作品をとおして、加工性その他特に難点は認められなかった、現在試作品の狂い、その他について観察中であるが、特に異状は認められず、一般松材に比して、ヤニの吹き出がないのが、虫害松材の利点と思われる。 試作品は第7回住まいと暮らしの総合展に出品好評を得ている。</p>
16. 枝材、荒杣材の利用研究  堀之内輝男	<p>1. 目的 前年度に引続き、屋久杉材中の低質材（枝材、荒杣材、年輪割材）とその他県産未利用材の付加価値向上を目的とした、加工技術の検討と加工機器の改善を試みる。</p> <p>2. 概要 (1)デザイン面では造形的に材質をカバーするものを狙いとする。 (2)加工方法としては、コピングレース、彫刻機械、ルーターマシン等、特殊器機器の利用と加工機器の改善により、ある程度の量産可能なものとする。 (3)人工乾燥法の検討</p> <p>試作品 ・茶托 ・銘々皿 ・盛器</p> <p>3. 成果 屋久杉及びけやき枝材による茶托、年輪割材による盛器、銘々皿については一応所期の目的が得られたが、なお機器の利用、改善についても継続研究中である。</p>